

慢性期失語症者の地域生活成立に向けての行動分析的アプローチ
～ 言語臨床におけるパラダイム・チェンジ～

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター

慢性期失語症者のウェルニッケタイプ(事例1)、ブローカタイプ(事例2)2名に外食行動という社会的・機能的な言語行動の実際の地域生活内成立を行動分析学による方法を用いて実施した。言語聴覚士(以下ST)が本研究参加者と共に地域に赴き、参加者の実際の生活場面をアセスメントし、その結果から、要求言語行動を中心とした社会的に機能的な言語行動成立を図る為に必要条件を確認した。確認後、専門的な援助を実施し、より有益な援助成立の為に地域成員に対する働きかけを行った。更に、使用各店舗へ新たな援助導入についてインタビューを実施した。

事例1では、「注文品名及び金額を店舗の見本よりノートにコピーし、その文字使用による注文行動成立」を目的に全課題提示法による時間遅延のプロンプトフェイディングで実施した。事例2では、「携帯電話の静止画像を使用した注文行動及び買物行動」成立を全課題提示法による時間遅延のプロンプトフェイディングで実施した。更に、使用した店舗へ新たな援助手段の導入、STの援助援護への介入の是非についてインタビューを実施した。その結果、事例1では、外食行動成立の為に必要なプロンプトを店員へ依頼することで単独での注文行動が可能となった。また、注文した料理を描画再生で家族に伝える、口語で物品の要求をする、外出時に所持金の要求を行う等、病前に見られなかった行動が生じた。事例2では、事例1で使用した各店舗及び事例1では未実施店舗での「携帯電話の静止画像の使用」による外食行動作業を実施し成立した。また、各店舗側へのインタビューの回答から、「文字のコピー」、「携帯電話の静止画像」という新たな反応形態の導入についての地域成員(店員)の受け入れは可能であり、導入の際、STが何らかの介入を実施することが重要であることが明らかになった。

以上のことから、失語症者の地域生活成立を視野に入れた訓練を実施する場合、1)従来の医学モデルから言語機能そのものへの改善を中心としたアプローチのみならず、多様な反応形態を使用した地域生活等の社会的機能の成立に向けた環境側への人的・物的援助設定のアセスメント、実施や実施後の維持目的での環境側への援助内容の要請という援護作業 2)社会的機能成立に向けて環境側への援助・援護作業に必要とされる具体的反応形態等を使用した機能獲得のための「教授」場面を従来の訓練場面やアセスメント内容に組み込むことが重要である等、STとしての従来の職制を越えた実践やアセスメント方法の変更の必要性が示唆された。